

平成12年1月(2000年) No. 409

<新年ご挨拶>

いよいよ2000年時代の始まり OMCの更なる発展の年に

会長 合原一夫

よき2000年のお正月を迎えられたことをお慶び申し上げます。昨年
 はOMC会員数が30名の大台を確保し、例会もいつも会場一杯で作品数
 も毎月10本以上、多い月は15本という盛会でした。作品研究会の方もすっ
 かり軌道に乗った感があります。今年は2000年代の始まりの年であり、
 公開映写会も40回という節目を迎えます。会員諸氏はそれぞれ、年1本
 の「これぞ我がグランプリ作品」を目指して、映像フェスティバルへ向け
 て作品制作に取り組んで欲しいと願っています。

今年もまた、作品研究会を幅広い活動の場とし、ミニ撮影会や、希望者
 を集めての撮影会や小旅行などいろいろと企画し、より楽しいOMCへと
 発展させていきたいと考えております。大きな祭りを共同撮影し、その荒
 編集素材を皆に分け与えて、それぞれが自由に作品をつくってもらってコ
 ンテストを行う等の企画も世話役の間で検討して頂いております。本年も
 どうぞよろしくご支援ご協力の程お願い申し上げます。

1月例会と研究会のお知らせ

1月例会は22日(第4土曜日)午後6時より、阿倍野市民学習
 センター(あべのベルタ3F)で開催します。どうぞ作品をお持ち
 になってお越しください。今年初めての例会、楽しく始めま
 しょう。

研究会は同日午後1時半より、例会場で行います。今月は事前
 にお渡しした、りんくうたうん彫刻の夕景と夜景をダビングしたカ
 ットを一部使用して光と影をテーマの自由作品です。夜の光をテ
 マの映像づくりの勉強会に奮ってご参加ください。

(2月雪をテーマ)の撮影会の件など有り)。

作品研究会のレポート

11月27日御堂筋の彫刻をテーマにしたミニ撮影会の作品を今月の研究会で出品して頂きました。一応コンテスト形式にしてはどの提案があり、互選にて順位を決めましたが、皆さん甲乙つけがたい出来で感心しました。
■作品名と作者：「彫刻ストリート御堂筋」増池さん4分、「御堂筋の彫刻たち」江村さん3分40秒、「銀杏と彫刻のアリア」関さん3分30秒、「彫刻」安居良枝さん、3分20秒、「師走という呪縛」安居さん3分、「御堂筋ウォーキング」高田さん3分、「彫刻のある道」合原さん3分30秒、「秋日御堂筋」前田さん4分、「一寸見てよね彫刻一同」奥さん3分17秒、「小さなワルツ」有村さん3分54秒。以上11本で1位関さん、2位有村さん、3位高田さん、4位奥さん、5位安居良枝さんの作品でした。同じテーマで作風がこうも違ってくるものかという思いを強くしました。このほか来月テーマの参考にと有村さんの「りんくう・かんくう」6分30秒を上映し、休憩の後、世話役会および例会へと引継ぎました。

12月例会のレポート

今年最後の例会は、21名の出席者と10本の作品があり、司会関さん、書記安居さん、デッキ係奥さん、渡辺さん、受付兼照明係増池さんの担当で会を進行しました。

■出席者（順不同）：増池、江村、関、安居夫妻、合原、渡辺、前田、奥、那須、森、有村、上総、藤原、森口、森下、森田、岡本、今井、松本、華岡の21氏（ほかに安居充さんは作品のみ出品）

■上映作品（今月の記録と短評担当：安居利次世話役）

1. 行く秋 3分45秒 江村 一郎さん

桜の名所として有名な玉串川を中心に行く秋を表現した名作。近くをちょっと撮ってきたと本人の弁だがなかなかどうして、川を流れる赤い落ち葉のアップがタイトルをよく表しています。きれいに整備された川も現大和川が出来る前は、平野川、久宝寺川と共に度々洪水を起こしたようです。司会のお話では地藏さんのカットは川をへだててロングで撮ってをにおいてアップで2、3カット撮ると唐突という感じがしないようになるとのこと。近くでいつも見ている景色は唐突と感じないもので、第三者の立場で組み立てないといけないものだと、筆者の事を言われてるように思いました。

2. 大阪南港あたり 5分20秒 安居 良枝さん

いつもの良枝さんの調子が出ていない。と司会の弁。そのとうり単に南港を紹介したにすぎない平凡な作品。期日が迫って前に撮ってあった映像を大急ぎでつないだという言葉がそのままの雑さで、「明石海峡に夕日が沈みます。」というナレとカットが重なったり、基本的なミスも目に付きます。研究会用の御堂筋に時間を割かれたという事はいいいけになりません。

3. 古代への思い 7分 安居 利次さん

「考古学は小さいかけらから古代の事を想像するようだけれど、安居さんもかなり想像力がありますね。」と司会の言葉。近つ飛鳥と弥生両博物館の展示物から勝手に推理した大阪の古代の作品です。故郷のない私を表

現するのに「ソニータワーの上からの心斎橋のカットは唐突で流れを止めてしまう。」の司会の弁。筆者の頭のなかでの思いがまだまだ一般化していないことのしるしでした。同じ指摘を妻からも受け少し縮めたものでしたから、家に帰ってからそれ見たことかとかこっぴどく言われました。

4. ブルガリア紀行 10分16秒 合原 一夫さん

前会のルーマニアと同じツアーでいかれたいわゆる東欧圏の国の紀行ビデオ。いつもの現地の人々の中に入った生活臭が身近に感じられる作品とは違って観光客の一人として外から建物や景色を気楽に見てこられた作品。出てくる人物も奥様やツアーの人々。でも一昔前までは、行く事さえ出来なかった共産圏。昔からの建物もコウノトリの伝説もちゃんと残っているのを見て安心感を覚えました。東欧圏のツアーはまだ少ないとのこと。西欧に飽いた人々がこれからスポットを当てる場所になりそうです。

5. 自衛隊の演習 8分10秒 渡邊 雄衆さん

伊丹駐屯の自衛隊の演習の様態をビデオに収めました。まことに珍しい映像でみんな画面にひきつけられます。司会者や筆者の年代(70歳あたり)は複雑な思いがひとしおです。これで兵隊さんと言わない矛盾。近代兵器の性能を目のあたりしながらこれらを駆使する人々の何か弱々しさ。国を守る決意が感じられません。平和ボケした日本人も2000年を期に国を守ると言う言葉ぐらいははっきりといえる国民になりたいものだと痛感しました。15.5センチ榴弾砲、地対空誘導弾ペトリオットなど兵器のメカになると関心が強くなるのは戦時中の小国民の名残なのでしょう。

6. 宇佐神宮散策 6分58秒 奥 宏さん

奥さんの郷里の近く、宇佐神宮にお参りされた時の映像にいわれをからませたナレで構成されています。筆者も数年前、ツアーで行ったことがあるので、懐かしく拝見しました。全国八幡さんの総元締め、格式の高い神宮です。(余談ですが奈良の大仏さんを作るときに銅の産地を理由に大和政権と縁を結んだようです。出雲と同様、4拍手のなぞは筆者が解きたい題材の一つです。)和気清麻呂の所で、テロップとナレが同じことを表現しているところがありました。どちらかにした方がよいとの司会の意見でした。また散策、逍遙、探訪、タイトルのつけ方も難しい問題です。

7. 真夜中の訪問者 5分20秒 安居 充さん

前々回のダンシングプリンとは又違うバージョンの作風でどうゆう分類に入れるか意見の分かれるところです。本人はホラーコミックとか。いかにノンリニアで作ったかを見せぬように工夫したそうです。シナリオと作曲は充のお嫁さん、つないだカットを見てエレクトーンで弾いたそうです。顔を見せず足と音と会話だけで構成したのがよかった、ゴキブリの走る音も極自然であり擬音を感じさせないと司会者の弁。高田さんと共に、若いセンスが楽しみと期待されているので、がんばれよ。(父親としての筆者の声)

8. 金沢ビデオスケッチ 7分 那須 典彦さん

NHKの新日本紀行(来年の1月から再開)を思わず完成ぶりに、全員うなりました。やはりナレがあると、みんなによく解かると思います。近江市場でも人力車の場面でもきっちり三脚を使っておられます。そのすばやさは、才能としか言いようがありません。人力車に乗った新郎はアメリカ人だったのですね。ナレで聞きながら羽織袴姿だつというっかり日本人と思ひこ

むところが、常識でものを見てしまう愚かさなのかもしれません。ナレ派である筆者としては那須さんが、これからもナレをいれた作品を一つでも多く制作していただきたいと思います。司会がこれぞビデオ作品の教科書と言われたのも最もで、私たちは教科書を基礎にしてそれぞれの個性を秘めた作品作りを目指したいです。

9. 奈良の冬

4分32秒

有村 博さん

奈良の夏、秋編につづく冬編、東大寺を背景にした雪と鹿、その静かな冬の雰囲気をかもし出しています。二月堂への坂道も人影のない雪景色は別世界に来た感じがします。雪を撮るのは難しい。どれくらい絞るか対象物と全体のカットのバランスが違ってくるし、そのカットをつないでいく時、絞りすぎがあると全体として違和感を感じます。その点もうまく撮られています。さすがベテラン、2月の研究会雪の参考になる作品でした。屋根に積もった雪や人影のない静かなシーンのなかにゆっくりした鹿の動きはいいものだと見とれました。

10. 錦秋の神護寺

8分10秒

森口 吉正さん

11月半ばの休日、紅葉のメッカ高雄で撮られた神護寺の風景。すごい人ごみを上手に撮り入れてうまくまとめられています。森口さんには、いわゆる森口調が定着した感がありましたが、その中であって今回は、ゆとりが感じられます。筆者もきれいな景色、風物より人の動きや自分の中の何かを伝えたい(本当は優秀なカットを撮る感性がないから)方ですからゆとりの部分に期待をしています。司会が言われた下手なおぼちゃんのお皿投げの結果をいれることも、その延長線上にあることかもしれません。

以上で作品上映を終了し、いつものように喫茶店組と居酒屋組に分かれて今年最後の二次会を楽しみました。

■作品発表会

1月29日(土)13時より、第6回映像作家連盟の発表会が阿倍野市民学習センター講堂で行われます。今回は有村さんの往年の名作「煙の挽歌」も上映されます。お誘い合わせのうえ是非ご来場ください。

■12月の例会作品をインターネットで発信

12月号ニュースから情報化の時代への対応策として、インターネット上にOMC例会作品(奥氏作品)を紹介しましたが、今月はその第二弾作品として合原さんの「ブルガリア紀行」をアップロードしました。下記のURLで観ることができます。

OMCのURLは：<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/> です。

OVCのURLも：<http://www.os.xaxon.ne.jp/~fujihara/> です。

合わせてご覧ください。

なお、メールアドレスを持っておられる方は広報担当まで連絡ください。

VIDEO 今月の例会作品介绍

「東欧の古都 ブルガリア紀行」合原一夫作品(画像をクリックしてください、スタートします。)

No	Real Video5.0	for 28K modem	1870KB 10分14秒
1			